

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

5月下旬、大町合同庁舎講堂で開催された平成29年度長野県長寿社会開発センター大北地区賛助会の研修会で演題「高齢者が目指す社会参加活動」の講師

として話す機会があった。総会に引き続いての開催でもあり大勢の会員が参加する。講演時間が90分以内との条件だけで、講話内容について詳細な指示がなかったため社会活動に積極的に興味を持っていただけたような内容に心掛ける。

賛助会はシニア大学で学んだ仲間が、地域社会の一員としてかわる事、その人らしく生き抜き、多くの事業を展開して明るく楽しい長寿社会を実現しようとする組合だ。演題の高齢者の定義は、日本を含む多くの国で、暦年齢65歳を高齢者と定義している

が、日本老年学会・日本老年医学会は一月に高齢者に関する定義検討ワーキンググループで、高齢者を高齢期として75歳から89歳とし、75歳以下を准高齢期との提言をしている

年金支給年齢の繰り上げや、医療をはじめ多くの分野で負担を求められていく過程での高齢者の定義変更かと疑ってしまう。

講話の最後に、これまでの見方・着眼点を、今年、新たに8名の加入者、総勢34名体制に。基本事業は、年

大北地域が明るく豊かな長寿社会となる意識の大切さについて考えてみませんか

る。確かに65歳の高齢者の定義では、高齢化社会を示す数値が氾濫し、国全体の活力を削ぐ雰囲気が増える事実に、高齡化は、社会制度崩壊の危険を抱えている事もあり、

ちょっと変えてみて、地域で積極的に伝える役割を担ってほしい。そして、地域で記憶に残る人生を歩むために活躍をお願いした。

5回以上の、社会参加事業を会として実施することが本年も満場一致で決定した。この日、白嶺周辺の草刈り作業、会員が持ち寄った草刈機17台が作業に着手。大きな音が鳴り響く様子に、入所者が

懐かしそうに見入っている。会員の一人が、「いざれお世話になるかもしれないから、体の動くうちは積極的に参加しなくては」とつぶやきに、多くの会員がうなずく。その姿は、生かされている人

生そのものだ。多くを学び、社会で、その人らしく生き抜いていく大切さを、今回も実感する事が出来た。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



白馬グループ総会、自らのこれからの人生を考える良い機会の場でもある